

評価実施日	令和2年2月21日	学校名	新座市立 池田小 学校	評価者 (新藤久典) (宮崎圭子)
評価の項目	学校の希望に基づく評価の観点		評 価	
1 重点目標	<p>・学校は、各授業において主体的・対話的で深い学びを推進するとともに、「ユニバーサルデザイン」の観点で児童一人一人が学びやすい授業づくりに取り組んでいる。</p>		<p>○校長の強いリーダーシップの下、新学習指導要領に対応した授業づくりに一丸となって取り組んでいることが伺える。 ○各学級とも、児童は落ち着いおり、「やる気、ゆう気、げん気」の学校方針が、児童によく浸透されていると感じた。臆することなく来訪者に挨拶ができ、何より授業への積極的参加態度、熱心なクラブ活動に表れていた。 ○教師は、本時の課題・ねらい等を明確に示し、児童の思考を中断させることなく、スピーディな授業を行っている。 ▲「対話的な学び」に関しては、教師と児童との一問一答形式が中心で、児童が主体的に課題を練り上げ、協働して学びを深める授業は十分とは言えない。4月からの学習指導要領の全面実施を前に、早急な改善が望まれる。 ▲「ユニバーサルデザイン」の観点に基づく授業づくりについては、教室環境の工夫は3年間の研究の成果が伺えるが、授業づくりについてはやや形骸化が見受けられ、児童一人一人の教育的ニーズに応じた授業づくりが望まれる。</p>	
	<p>・学校は、コミュニティ・スクールの推進のため、地域の人材・環境を学校に取り込み、保護者との連携について組織で対応し、連携を深めるなど、信頼関係の構築に努めている。</p>		<p>○校長を中心として、「池田小グランドデザイン」の具現化に向け、地域資源を活発に活用され、学校教育の中に位置づけられている。 ○そうした、学校の教育活動を積極的に外部発信し、地域の様々な力を吸引し、保護者・地域の信頼を勝ち取っている。 ▲今後は、地域の学校に対する要望や意見を積極的に吸い上げることが望まれる。そのためにも教職員の積極的な地域への関わりが求められる。</p>	
	<p>・学校はふれあいデーを完全実施するなど、教職員の心身の健康を守る働き方改革を行っている。</p>		<p>○校長の強いリーダーシップにより、仕事内容と仕事量の見直し、効率的な運営の在り方に対する教職員の意識の変革が徐々に深まっている。教頭も校長の意を体し、積極的に教職員の意識変革に努めており、成果が徐々に出てきている ▲学校行事等の見直しは必要ではあるが、従前の働き方の改善だけでは働き方改革の達成は十分には望めない。管理職・教職員ともに抜本的な意識改革を図るためにも、外部の専門家の力も借りて、徹底した見つけ直しが見られる。</p>	
総合評価	<p>○校長は、5年、10年先の池田小学校を見据え、学校のあるべき姿を具体的に描き、「目指す学校像」「目指す児童像」「目指す教師像」で明確に示している。その実現のための方向性・方策についても、「教育方針の4つのキーワード」「学校経営の重点・努力目標」として示し、教職員の意識変革を着実に進めている。そうした努力の成果は各学級での授業として結実しつつあり、ベテラン教師の優れた実践力を若手教員に引き継ごうとする姿も随所に見られる。特に、「スピーディな授業」により、児童の思考を中断することなく、45分間目一杯課題に取り組ませる授業スタイルは、授業の充実感として感じられるほどに浸透している。 ▲主体的・対話的で深い学びの授業改善については、まだ不十分な点が散見される。校内研修の充実が望まれる。あくまでも児童一人一人の生きる力を高めるための方法・手段であるとの認識の徹底が必要である。 ○保護者・地域の学校に対する信頼は、児童たちの学校生活の充実による生き生きとした姿と、そうした学校の努力する姿をあらゆる機会・場を利用して積極的に発信していることに拠るところが大である。 ▲今後は、保護者や地域の力を学校に積極的に吸引し、それらを学校の力として活用することにより、学校と家庭・地域が連携して、未来の池田小学校を築くという一体感の醸成が望まれる。</p>			